

BERCニュース

2014年度BERC活動スタート

一般社団法人経営倫理実践研究センター（BERC）の2014年度の活動がスタートした。新設された「社外との労働研究会」など、今年度は6部会14研究会となっている。また、6月16日には、BERC社員総会が開かれ、役員の一部が交代した。

第三者委員会などをテーマに

社外との協働研究会スタート

2014年度に新設された協働研究会の一つ、社外との協働研究会が4月18日（土）にスタートした。この研究会は、企業と大学・研究機関など、異なる組織間での協働を促進することを目的としている。研究会の初回は、古谷由紀子氏（古谷由紀子）が「協働の意義と課題」と題して講演を行った。古谷氏は、協働が企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。



社外との協働研究会第1回目で、研究会の狙いを語る古谷由紀子氏 = 4月の研究会、BERCセミナー室にて

協働とは、異なる組織間での協力を指す。企業にとっては、新たな市場を開拓したり、技術開発を加速したりするために不可欠である。しかし、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要がある。古谷氏は、協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。



SNS研究会を担当する石川晃氏 = 5月の研究会、BERCセミナー室にて

技術の向上で、利用効果が高まる

SNS研究会で石川氏

2014年度に新設された協働研究会の一つ、社外との協働研究会が4月18日（土）にスタートした。この研究会は、企業と大学・研究機関など、異なる組織間での協働を促進することを目的としている。研究会の初回は、古谷由紀子氏（古谷由紀子）が「協働の意義と課題」と題して講演を行った。古谷氏は、協働が企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。

石川晃氏は、SNS研究会の活動を通じて、企業の技術向上と利用効果の向上を促進することを目的としている。研究会では、最新のSNS技術に関するセミナーや、企業間の交流イベントを開催する予定である。石川氏は、SNSが企業のマーケティングや顧客とのコミュニケーションに大きく貢献していることを強調した。

協働の意義と課題について、古谷氏は「協働は企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。また、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要があると述べた。

石川晃氏は、SNS研究会の活動を通じて、企業の技術向上と利用効果の向上を促進することを目的としている。研究会では、最新のSNS技術に関するセミナーや、企業間の交流イベントを開催する予定である。石川氏は、SNSが企業のマーケティングや顧客とのコミュニケーションに大きく貢献していることを強調した。

協働の意義と課題について、古谷氏は「協働は企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。また、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要があると述べた。

石川晃氏は、SNS研究会の活動を通じて、企業の技術向上と利用効果の向上を促進することを目的としている。研究会では、最新のSNS技術に関するセミナーや、企業間の交流イベントを開催する予定である。石川氏は、SNSが企業のマーケティングや顧客とのコミュニケーションに大きく貢献していることを強調した。

協働の意義と課題について、古谷氏は「協働は企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。また、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要があると述べた。

石川晃氏は、SNS研究会の活動を通じて、企業の技術向上と利用効果の向上を促進することを目的としている。研究会では、最新のSNS技術に関するセミナーや、企業間の交流イベントを開催する予定である。石川氏は、SNSが企業のマーケティングや顧客とのコミュニケーションに大きく貢献していることを強調した。

協働の意義と課題について、古谷氏は「協働は企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。また、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要があると述べた。

石川晃氏は、SNS研究会の活動を通じて、企業の技術向上と利用効果の向上を促進することを目的としている。研究会では、最新のSNS技術に関するセミナーや、企業間の交流イベントを開催する予定である。石川氏は、SNSが企業のマーケティングや顧客とのコミュニケーションに大きく貢献していることを強調した。

協働の意義と課題について、古谷氏は「協働は企業にとって重要な役割を果たしている一方で、コミュニケーションの不足や責任の所在が不明確といった課題も指摘した。協働の成功には、お互いの強みを活かすことが重要であると述べた。また、協働には、お互いの利益を調整し、責任を明確にする必要があると述べた。

潮流

この号では、最新の経営情報や業界動向について詳しく取り上げます。また、読者の皆様からのご意見やご質問にもお答えいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

本誌の発行は、一般社団法人経営倫理実践研究センター（BERC）によるものです。本誌の発行は、一般社団法人経営倫理実践研究センター（BERC）によるものです。本誌の発行は、一般社団法人経営倫理実践研究センター（BERC）によるものです。

ソニーに欲しいジョブズの再来

ソニーのジョブズが、現代の企業に何を教えるべきか。その答えは、ソニーの成功の秘訣にある。ソニーは、常に最先端の技術を開発し、それを製品に落とし込んできた。その結果、ソニーは世界中で愛される企業となった。現代の企業も、ソニーのように、常に最先端の技術を開発し、それを製品に落とし込む必要がある。ソニーのジョブズが、現代の企業に何を教えるべきか。その答えは、ソニーの成功の秘訣にある。

企業不祥事等一覧の概要 (2014年3月~2014年5月)

※表は主要5紙を参考

高砂熱学工業など8社	3月10日	北陸新幹線の融雪設備工事をめぐり、談合事件で国土交通省は、独禁法違反で起訴された設備工事業者8社に、建設業法に基づき法令順守の徹底を勧告。
日本郵船ほか	3月18日	自動車輸出の海上運賃をめぐり、カルテルを結んでいたとして公正取引委員会は、大手海運会社4社に独禁法違反で総額227億円の課徴金納付命令と排除措置命令。商船三井は違反を自主申告し命令を免れた。
ユニクロ	3月26日	ユニクロを展開するファーストリテイリングが、記事などの内容が事実と違うとして文藝春秋を訴えていた裁判で、東京高等裁判所は原告側の請求を退けた一審判決を維持し、ユニクロ側の控訴を棄却した。
リンクアカデミー	3月27日	顧客を何時間も引き留めて勧誘するなど特定商取引法違反があったとして近畿経済産業局が、パソコン教室「アピバ」の運営会社である同社に是正指示。
海上保安庁	4月1日	海上保安庁と海上保安本部が巡視船の修理などで、架空契約を結ぶなど6年間に約千件、計約14億円の不正経理があったとして職員67人を戒告処分したと発表。
カネボウ化粧品	4月2日	美白化粧品で白斑症状を発症したとして、静岡、山梨両県の男女14人が計7000万円の損害賠償を求める訴訟を静岡地裁に起こした。
都立高校	4月18日	2月に実施された東京都立高校の入試で大量の採点ミスがあった問題で都教育委員会は18日、不合格とされた4校の4人を追加合格とすることを決めた。
国立国際医療研究センター病院	4月18日	整形外科の医師が誤った造影剤を注射し、検査入院中の女性(78)を死亡させる医療事故があったと発表。
ソニー	4月24日	ノートパソコン「バイオフィット 11A」で、バッテリーパックが過熱して火災の恐れがあるとして、2万5900台のリコールを発表。
滋賀県警	4月29日	逮捕した容疑者の余罪として窃盗事件を立件しようとしたが、三重県警がすでに別の容疑者の余罪として事件処理していたため、関係ない事件を余罪としていたことが分かった。
マルヤマ商会	5月13日	米人気ブランド「チャンルー」の偽物のプレスレットが、大手百貨店で販売されていた事件で警視庁生活経済課が商標法違反容疑で販売責任者ら4人を逮捕。
おひさまエネルギーファンド	5月23日	太陽光発電事業のファンド運営会社である同社が、出資金の一部を別の出資者の配当に充てるなど、資金管理が不十分として関東財務局が業務改善命令。
太陽商会	5月27日	虚偽の売上高を計上し決算を粉飾したとして金融庁が、名証セントレックス上場の同社へ、課徴金約1200万円を納付するよう命令した。
北海道軌道施設工業	5月30日	JR北海道は、子会社の同社が、枕木を交換した際検査を忘れたにもかかわらず、検査の実施を装い数値を捏造してJR北へ報告していたと発表。作業の4日後にJR北の定期検査で異常が発覚した。

欠航相次ぐLCC

「格安」だけでいいのか...

た月タがが万をエ25ア日どよ整でコ航立
 増3!大出人欠ア8!ピ本がる備`ス空つ空
 便日・株そ近航は便1E空相欠体パト社との
 をかジ主いし6、0!輸次航制イ・社期旅
 1らヤのだ利`月しにヨの増遅ツヤ`レさ大
 2予パジ。用合にヨの増遅ツヤ`レさ大
 日定ンE日者わ1ハ大は`る延不ア`る化
 かしもツ本にせ5`二大は`る延不ア`る化
 らて、ト航影て4ラ2今チ。期ど足!口格に
 にい6ス空響3便・1年・全なにや`1安役

別運行用期限内後わ社L指モぬが行す定ん延
 名賃回しやにでのずのC摘デ`る為る性で期
 -を数て夜すの中`よ`さ`ルしうで`企`重し
 空実を1問るサ型定うは`これのC`業を重し
 飛現増機のと!機員に、て構Cで`倫なな。
 ぶしや当時とビを1大`造のは安理い`安
 電てした間もス採5型手。的ビ済かにが運全
 車い`り帯にを用0機航 欠ジまるもし航性
 `る格のも`最。人は空 陥ネさうととのと
 。`安飛活早小機前使会 もスれ悪るに安並

るともる長な病長め性さ欠航しつ着3は占度のバ加”旅でし福3わ
 全も`計2く気5たにれぎ`かあ実06めの参二にに客`た岡月が
 日に5画8なや2`黄て`増しるに%`る国入ラ転よ数同ビ、`国
 空`人だ人つけ人ビ信い当便、`存にをL内にや`じりは年!新関で
 な資が`つ体たがの!号た初延こ`在は突C線伴`シエ6`度チ千西は
 ど本退た制。`でうちが運か期こ`感及破Cのい`ツ。年ビのが歳国2
 か関職バで6乗ちでと航らなに`をば。の旅、ト`そぶ!国さ間際0
 ら係や二運月務8はもの不どき`増な欧シ客1`スのりチ内きに空1
 応の病ヲ航にで人`り安安がて`しい米E数3`タ後に効線が就港2
 援あ欠です機きが機始定視相欠`つがのAに年!の増果のけ航と年

がの航し採日縦なを社Lをやに安もスてパし増体点ト田に不方れの
 狂急のて用航にい自のC上しは運指モはイに便のをス`空つ足計`パ
 つ成再きししの伴。`社よC`けて`賃摘デ、`ロしを整目タ`港をいのだ欠イ
 て長建た`元つ当養うにね航パをさ`L`ッて再備指!`抛たた扱が航口
 しに進。`員パて初成にはば空イ実れのCトいた。`三体すは点ば本`を`ツ
 まよ展し数イ解はずバ`大な機口現て構C不。`再制開、`と`かのバ極ト
 つりとか合口雇`るイ手らの`ツすい造の足`四が空第。`り対イ力を
 た`しわ`ツさ経余口航な稼とるの的ビに`先整で2`シ`だ策口減受
 `目C`せ`れ`営裕`ツ`空い働をた。`欠ジ関`延わのの`エ。`は`つらけ
 国算C日のををた破はト会が率増め格陥ネし`ば`ず機抛`ツ`成緒トす入

ま打社異検かど不さ違降のるシ異らと那ビ人は7口内土
 まち内常証にが足れい下機。`テ常約し覇!と60`ツで交
 那切規接すつ影にるしの長アン接7た空チなる70ト必通
 覇り定近べい響よがた指がルト近5航港は`0人は要省
 発とにしきてしる。`示`ぜをすメ空に今通`0が1とに
 関せ従たでも過パのが管`ン起る!機着年`3`さよ
 西ずつ航あ`い密イが`出制チこ重トが陸4`7`2`年れる
 空`て`空る詳な日口原た官`し大ル海し月`3`2`のると
 港そ運機う細い程`ツ因とか国てイま面よ下`0年約バ、
 行の航は`にのなトと勘ら籍いんてかう旬`0に5イ国

短ト恐る`よ`づ`る`れ`悪Cの`ば`ひ`い`定`り`採`と`録`の`こ`き
 期不れ期空ウルなべな`かCが`と`た`性`算`さ`も`た`操`の`と
 的足も待飛ややがき`いる各航大た`と`が`安`性`れる`消`音`結`続`し
 なをあがぶく`欠り`だ`こう`社`空`惨`び`し`二`全`を`る`失`声`果`実
 欠奇る雲電芽航か。`と`は`機`事`事`た`の`性`重`し`記`の`運
 対貨。`散車`航が`ね`重`を`で`で`に`故`ら`次`や`視`て`録`音`異`航
 航とバ`航`え`続`な`大`肝`は`安`あ`つ`が`間`に`運`す`し`装`話`常`を`ま
 策しイ消に始けい事`に`済`か`る`な`起`題`な`航`る`ま`置`を`接`継
 とて口す`対`め`ば`ト`故`銘`ま`る。`が`き`だ`つ`の`あ`つ`の`録`近`続
 合`、`ツ`る`す`た`、`ラ`に`じ`さ`う`し`る`れ。`て`安`ま`た`記`音`時`。

の本外る禁口`て`乗員`た`を`転`ト`止`り`民`ね`て`パ`る`業`再`型`わ
 手の国`止`内`般`い`務`会、`今`出`の`し`規`主`い`は`イ`気`界`換`L`せ
 続航人`を`失`の`る`時`の`国`年`を`民`た`制`党`て`、`口`概`発`討`て`
 き空パ`減`て`治`胃`医`に`答`交`春`促`問`自`の`政`い`政``ツ`を`展`し`C`長
 (会`イ`ら`い`療`腸`薬`服`申`省`か`す`航`衛`一`権`る`府`ト`示`の、`期
 現社口`する`薬`薬、`品`用`に`の`ら`制`空`隊`環`時`も`不`て`原`日`的`
 在で`ツ`こ`場`な、`を`基`有`再`度`会`パ`と`代`で`手`足`て`動`本`在`な`
 は動ト`と`合`ど`便`現`禁`づ`識`開`の`社`イ`し`に`は`を`に`し`し`の`力`の`り`
 `日`く`が`や`が`で`秘`在`止`き`者。`運`へ`口`て`天`い`な`こ`対`い`
 本時`日`、`あ`も`薬`は`し、`委`ま`用`の`ツ`停`下`。`ま`し。`な`空`を`本

る。`素`直`で`操`化`す`は`官`な`必`縦`土`一`も`が`の`体`検`あ`試`の`討`る`取`し`を`り`て`の`受`
 望み`が`結`実`し、`に`なる`こと`が`
 期`ま`が`結`実`し、`に`なる`こと`が`
 望み`が`結`実`し、`に`なる`こと`が`
 期`ま`が`結`実`し、`に`なる`こと`が`
 望み`が`結`実`し、`に`なる`こと`が`

「ホイッスラー展」開催
 たと曲`ー`使`楽`とも`損`
 作い`っ`ア`う`ホ`い`の`裁`
 予品`な`レ`語`イ`う`の`判`
 定音`た`、`ン`を`画`ス`も`破`
 楽用`ノ`ジ`シ`フ`有`産`勝`
 楽用`ノ`ジ`シ`フ`有`産`勝`
 楽用`ノ`ジ`シ`フ`有`産`勝`

第19回BEO懇話会開かれる

統合報告書をテーマに 松尾氏が講演



尾幸喜氏の懇話会で講演する松尾ルム

成た状と心け の意合役ビP講館21責O
 の。`況`し`が`る`松`視`点`報`リM師で日任へB
 基`な`て`最`一`尾`点`に`告`で`テ`G`は`開`者`経`E
 本`統`ど、`近`統`講`か`つ`の、`い`あ`松`か`東`管`R
 合`に`そ`高`合`師、`い`潮`テ`株`ず`尾`れ`京`懇`倫`C
 デ`報`つ`の`ま`報`は。`て`流`し`式`さ`幸`た`国`話`理`主
 `告`い`取`つ`告`日`と`マ`会`サ`喜。`際`会`担`催
 `タ`書`て`り`て、`本`経`そ`は`社`ス`氏`今`文`が`当`の
 `把`の`話`組`い`の`に`營`の、`取`テ`回`化`5`最`B
 `握`作`し`み`る`関`あ`者`留`統`締`ナ`K`の`会`月`高`E



あ`現`す`戦`特`な`集`
`統`の`略`に`ど`計`
`と`合`ガ`経、`目`を`プ`
`強`報`バ`営`そ`標`中`ロ`
`調`告`ナ`資`の`達`心`セ`
`し`た。`ン`源`た`成`説`
`の`ス、`め`の`明`の`
`本`な`戦`に`た`し`最`
`質`ど`略`投`め`た`適`
`で`が`実`入`の`化`

アート短信

横浜美術館で、年末に開館25周年記念

美画ま在主ホ作なボ義工実た同とタ
 術家たで義イに要ニ象ル主し時出
 批と、者ツ打素をな主派、前義ア代
 評しジ版のラスち取をな主義古ラム
 ともボ家!`んり`り`様`ジ`典`フ`あ`
 の名ニとダはだ入様ジ典フあ`
 名高スし、れ々ヤ主ア写`
 誉いム`的`唯`て`
 毀`の、`存`美`制`

り5開し、曜16会
 0館、1日日日期
 0、12月、ま)
 円観月212で22
 (覧25日月、00
 学料日(29休11
 生:(金日館54
 割一木)(日年年
 引般)た月:312
 有1、はだ)木月

の業て加ケ毎を会てた年
 コ不編の1年含`、`度`B
 `ン`祥`成`二`ト`会`む`、`社`新`事`E
 `ラ`事`さ`!`等`員`6`S`外`し`業`R
 `ブ`等`れ`ズ`で`企`部`N`とい`が`C
 `イ`は`て`を`研`業`会`S`の`研`ス`の`
 `ア、`い`く`究`が`14`研`協`究`タ`2
 `ン`現`る`み`活`ら`研`究`働`会`1`0
 `ス`場、`上`動`ア`究`会`研`と`ト`1
 `違`で`企`げ`参`ん`会、`究`し`し`4

編集部だより

でズな機るで織最不向りブルン反の
 のに能がきで近可上、ラにますか
 知対なし、つはで欠を企イ渡で無ら
 識応いてそつ`は`な`図`業`ア`つ、`視`経
 `、`す`い`れ`あ`一`の`る`備`で`幅`問`管
 `ノ`る`幅`か`が`る`応`各`が`基`値`す`い`広`題`層
 `ウ`B`広`な`実`と`の`企`経`盤`の`経`る`い`な`の
 `八`E`い`け`質`い`体`業`営`と`維`営。`ジ`ど`ガ
 `ウ`R`二`れ`的`わ`制、`倫`し`持`に`コ`ヤ`に`バ
 `の`C`!`ば`に`れ`が`組`理`て、`よ`ン`至`ナ

当回でダ企告称立
 た復`ル`業`書`は`機`ユ
 `る`の`最`等`不`格、`一`関`二
 `も`い`近`が`祥`付`第`が`I
 `の`わ`で`発`事`け`三`発`ク
 `と`ば`は`生、`委`者`足`な
 `し`仕`そ`し`ス`員`委`し`格
 `て`上`の`た`キ`会`員`た`付
 `、`信`企`ヤ`会、`け
 `第`に`頼`業`ン、`報`名`独

な`供`広`員`B`取
 `ら`を`い`社`E`得
 `な`心`情`に`R`を
 `い`が`報`向`C`心
 `け`発`け`二`が
 `て`信`て`コ`け
 `い`、`多`!`て
 `か`情`様`ス`ほ
 `ね`報`で`は`し
 `ば`提`幅`会`い

研(へ副利は会
 究麗弁委英9`今
 科澤議員明名は回
 教大士長、の、
 授学)(委構、
 、大、國護長メ付
 B学高廣土、ンけ
 E院嚴正、久バ委
 R経濟氏、保!員

批たの者応三
 判と一委のる者
 もすみ員最が委
 出るそ会終あ員
 空き報段の会
 気告階。を
 もをで不設
 あ濟、の祥け
 りま一第事と
 、せ応三対と

(け立で今てやにへ責分ス中 評客
 千に機踏まい、の任性コ立委価員
 、関みでる反格言。`I`性`員`の`研
 注は込、の論付及役企ブ、構要員
 目少`ん`こ`が`権`け`な`員`業`の`専`成`素`
 `な`だ`の`注`目`も`結`ど`の`等`適`門`の`と`ら`で`
 `さ`か`格`よ`う`さ`れ`打`果`だ`経`の`格`性`独`し`
 `れ`つ`付`う`る`ち`の`。`営`社`性、`立`て`あ`
 `る`た`け`な`る`出`公`さ`責`会、`調`性`は、
 `だ`独`形、`し`表`ら`任`的`十`査、`